

各計画などから、特に今回策定する計画に関連する事項を抜粋

国：第4期教育振興基本計画

【2023 年度（令和 5 年度）～2027 年度（令和 9 年度）】

【計画のコンセプト】

○将来の予測が困難な時代において、未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決などを通じて、持続可能な社会を維持・発展させていく

○多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方

【今後の教育施策に関する基本的な方針】

○誰一人取り残されず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進

○地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進

○教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進

○学校における働き方改革、ICT 環境の整備、経済状況等によらない学び確保

第五次愛知県教育振興基本計画

【2026 年度（令和 8 年度）～2030 年度（令和 12 年度）】

【基本施策】

○主体的・対話的で深い学びの推進ときめ細かな指導の充実

○持続可能な社会の創り手の育成に向けたキャリア教育の推進

○情報活用能力の育成と ICT 活用教育の推進

○不登校児童生徒への支援の充実

○インクルーシブ教育システムの推進

○外国人児童生徒等への支援の充実

○生涯学習の推進に向けた支援体制の充実

○学校・家庭・地域の連携・協働による地域教育力の向上

○健やかな体の育成

○働き方改革の推進

○安心・安全な学校づくりの推進

○教育 DX の推進及び ICT 教育環境の整備

次期瀬戸市将来計画 基本構想

【2027 年度（令和 9 年度）～2040 年度（令和 22 年度）】

【将来像の実現に必要な要素】

○瀬戸らしいダイバーシティを実現する

・多様な価値観が混ざり合い、未来に向けた新たな変化（価値観の創出）を促す

○挑戦が育つ学びをつくる

・起業家精神（アントレプレナーシップ）やチャレンジ精神を育む学びをすすめる

・多様な学び／学び直し場・機会をつくる

○変化を促すテクノロジーと融合する

・デジタル技術を徹底的に活用する

【市長の考え方・方向性】

○子どもたちの将来の選択肢を広げるため、多様な学習機会の提供と、挑戦する力の育成を重視したい。

○本物に触れる学びを通じて、主体的な探究心とアントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成を目指したい。

参酌（考えを取り入れる）

参酌（考えを取り入れる）

整合（方針に沿っている）

これまでの教育アクションプランでの評価
点検における課題・視点

- 言語の習得だけでなく、自分の国や地域の理解を深め、ものごとを考えることができる子どもの育成
- 教育の ICT 化により、子どもたちの深い学びと個別最適な学びの実践
- 夢と希望を持った子どもの育成
- いじめや不登校等支援が必要な児童生徒への対応のため、多様な学びの場や支援体制の構築
- 多様化する特別支援教育に関するニーズに対応するための充実、人材育成と支援体制の強化
- 健康の保持・増進だけでなく、すべての市民が安心・安全にスポーツを楽しむことができる機会を確保
- 社会に開かれた教育課程の実施や地域と学校の熟議の推進
- 児童生徒数の推移、学校施設の機能・維持管理の状況を踏まえ、適正規模・適正配置の検討
- 照明 LED 化改修や屋上防水改修などの個別改修により、施設の老朽化対策の実施

社会情勢

- 児童生徒数の減少
- H28：10,546 人→R8：9,225 人 ▲12.5%
- R7：出生者数 576 人
- 外国人児童生徒数の増加
- H28：224 人（23 校/28 校）
- R8：344 人（19 校/21 校） +53.6%

反映

反映

瀬戸市教育振興基本計画 2031

【2027 年度（令和 9 年度）～2031 年度（令和 13 年度）】

基本理念

瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」

瀬戸のすべての保護者が「我が子を瀬戸で育ててよかった」

瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

目指す学びの姿

人や地域とのつながりの中で郷土への愛着を深め、まちと未来を拓く人を育む

基本方針

1	持続可能な社会の創り手の育成	2	明日また来たいと思える学校づくりの推進
3	地域とともにある学校づくりの推進	4	生涯にわたり学ぶことができる環境づくりの推進
5	安全・安心な教育環境整備の推進		

取組の方向性・主な取組

児童生徒へのアンケート結果
（令和 8 年 6・7 月実施予定）